

氏名	土 井 正 行
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 1982 号
学位授与の日付	平成12年3月25日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学（一）専攻 （学位規則第4条第1項該当）
学位論文題目	Time-dependent Changes of Decorin in the Infarct Zone After Experimentally Induced Myocardial Infarction in Rats: Comparison with Biglycan （ラット実験的心筋梗塞の梗塞部におけるデコリン発現の経 時的変化：ビグリカンとの比較）
論文審査委員	教授 大江 透 教授 菅 弘之 教授 佐野 俊二

学位論文内容の要旨

低分子デルマトン硫酸プロテオグリカンであるデコリンは、コラーゲン線維を構成する細胞外マトリックス内に広く分布し、その構造維持に大きな役割を担っているものと考えられる。本研究では、ラット実験的心筋梗塞におけるデコリン発現の経時的変化を検討し、ビグリカン発現と比較した。ノーザンブロット法では、シャム手術ラットに比して、梗塞部デコリン mRNA は、2 日目に減少、7 日目に増加。ビグリカン mRNA は、2 日目より増加、デコリンに比して早期に増加を認めた。共に 14 日目にピークを迎え、以後漸減した。*in situ* ハイブリダイゼーション法では、梗塞周辺部に 2 日目からビグリカン mRNA 増加を認め、7 日目には梗塞中心部への伸展を認めた。デコリン mRNA は 2 日目には梗塞部に発現せず、7 日目に梗塞周辺部に増加を認めた。発現細胞は紡錘形間葉系細胞（心筋線維芽細胞及び線維芽細胞）であった。ラット心筋梗塞モデルにおいて、梗塞域のデコリン発現が時間経過と共に亢進した。ビグリカンに比して、デコリン発現の増加は遅く、デコリンが心筋梗塞後のより成熟した過程での組織治癒に何らかの役割を果たしている可能性が示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究はラット心筋梗塞モデルを用い梗塞後治癒過程におけるデコリンの発現を検討したものであるが、従来十分確立されていなかった梗塞後治癒過程におけるデコリンの発現様式に関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。